

2019年3月改訂版

保護者のための

# 職業ハンドブック

## 就職基礎知識





## 【目次】

- 1 若者の雇用の現状 ..... P 1
- 2 仕事を選ぶにあたって ..... P5
- 3 青森VS東京 生活比較しまSHOW ..... P6
- 4 家族で就職を考える ..... P10
- 5 就職支援相談窓口 ..... P14

# 1. 若者の雇用の現状

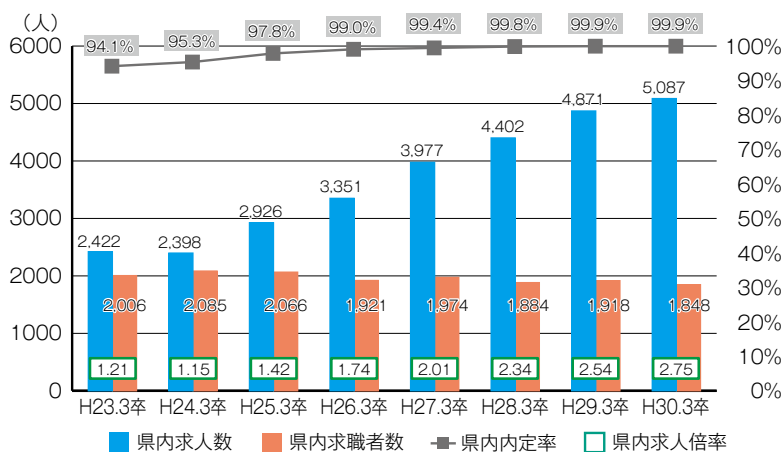
近年雇用情勢の改善が進み、有効求人倍率等は上昇していますが、離職率の高さが目立つようになってきています。

## ◇ 高校生の就職環境

全国的に雇用環境は改善が進んでおり、高校生においても、高卒者に対する求人の数は増加し、就職率も上昇しています。

県内の雇用環境も求人が増加し、求人倍率が上昇しています。

### 新規高卒者の求職・求人状況



資料出所：青森労働局

## ◇ 雇用形態の多様化

職業がいろいろあるように、働き方にもいろいろあります。

これまでは定年まで正社員として働く雇用形態が一般的でしたが、今は、契約社員、派遣社員、パートタイマー、アルバイトなど、企業間競争の激化や労働者の働き方に対するニーズが多様化したことなどから雇用形態も多様化しています。

## ◇フリーターやニート（若年無業者）の増加

近年、学校を卒業しても就職しない、あるいは、一度就職したものの離職して就職しないで無業の状態にある若者、定職に就かずパート・アルバイトで生活している若者、いわゆる「ニート」、「フリーター」の増加が社会問題となっています。

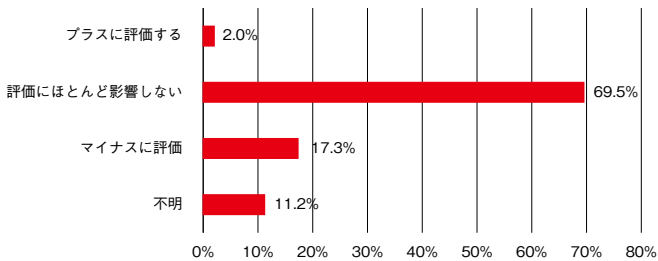
平成29年にはニートの数は53万人、フリーターの数には152万人となっています。

## ◇企業は採用にあたってフリーターの期間をあまり評価しない。

企業のフリーター経験に対する評価は、約7割の企業が「評価にほとんど影響しない」としていますが、約2割の企業が「マイナスに評価する」としており、フリーター経験をプラスと評価する企業が少ないのが現実です。

マイナスと評価する理由としては、「根気がなくいつ辞めるか分からない」「責任感がない」などが挙げられています。

### 正社員として採用する場合の企業のフリーター評価

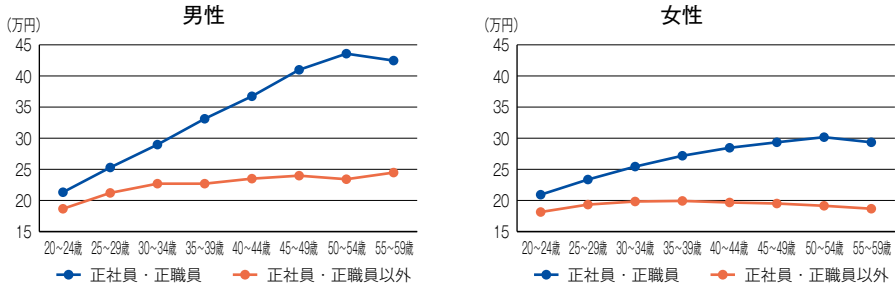


資料出所：厚生労働省 平成25年「若年者雇用実態調査」

## ◇雇用環境と非正規雇用の問題点

正社員と非正規社員では賃金、福利厚生面での格差は歴然としており、年齢を重ねるごとにその格差は拡大していきます。

### 雇用形態・勤続年数別賃金カーブ

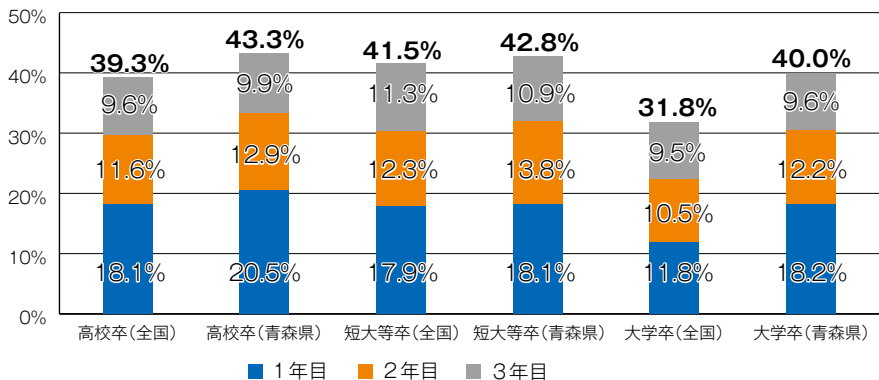


資料出所：厚生労働省 平成29年「賃金基本構造統計調査」

## ◇高い離職率

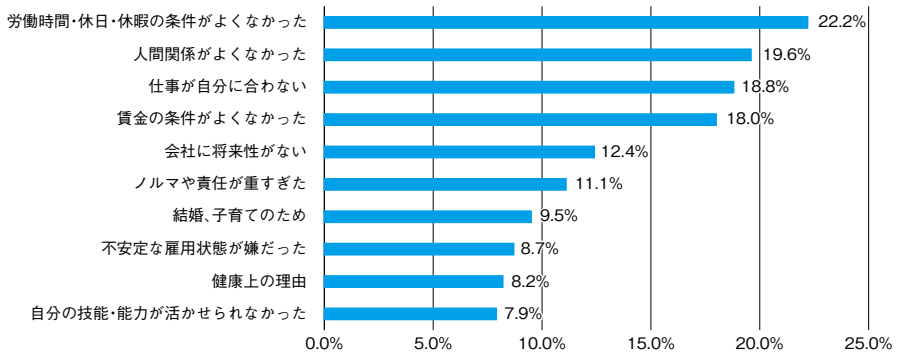
せっかく就職できたにもかかわらず、新規高卒者の入社3年以内の離職率は平成27年3月卒業者で43.3%となっており、離職率が非常に高くなっています。

### 新規卒業者の在職期間別離職率（平成27年3月卒）



資料出所：青森労働局

## 転職者が、初めて就職した会社を離職した理由（対象年齢：15歳から34歳）



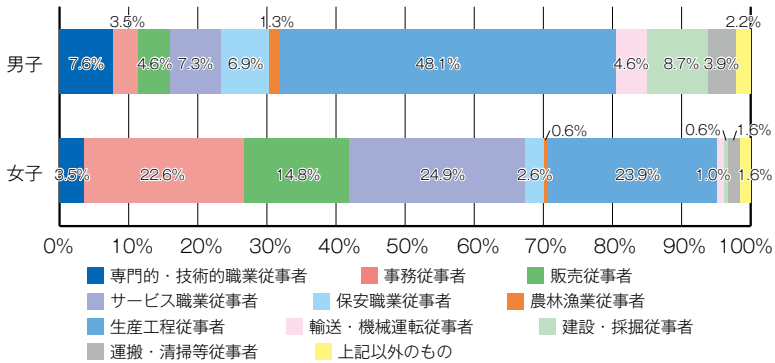
資料出所：厚生労働省 平成25年「若年者雇用実態調査」

## 2. 仕事を選ぶにあたって

### ◇生産工程従事者、サービス職業従事者が多くなっています

高等学校を卒業し就職した者の職種構成を見ると、男子では生産工程の職種に、女子ではサービス、生産工程、事務の職種に就職した人が多くなっています。

高卒就職者の職種構成

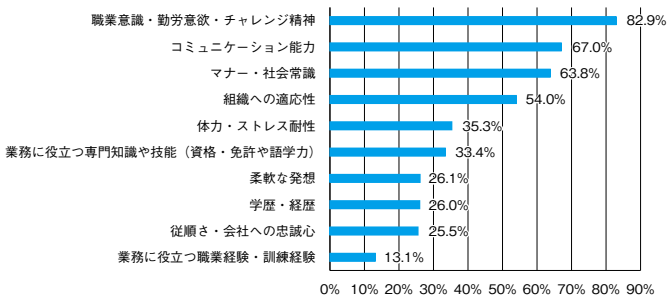


資料出所：文部科学省 平成30年「学校基本調査」

### ◇企業が求めている人材(能力)を知って、能力向上につなげましょう

企業が採用時に重視する点として、「職業意識・勤労意欲・チャレンジ精神」が最も多く、ついで「コミュニケーション能力」「マナー・社会常識」などが挙げられています。企業がどのような人材を求めているかを知り、自らの能力を向上させることが大切です。

採用選考に当たり重視した点



資料出所：厚生労働省 平成25年「若年者雇用実態調査」



### 3. 青森VS東京 生活比較しまSHOW

#### ◇青森県は県外就職率が43.3%

近年は、地方の人口減少が全国的に問題となっていますが、青森県においてもこの課題は顕著となっています。

特に青森県では、高校卒業後の進学や就職のタイミングで県外へ出て行ってしまいう人が多くなっています。青森県の高校卒業後の就職先を見ると、県外就職者の割合が43.3%となっており、これは全国で一番高い数値となっています。

#### 県外就職率

順位	都道府県名	割合
1位	青森県	43.3%
2位	鹿児島県	43.2%
3位	宮崎県	43.2%
4位	佐賀県	41.6%
5位	熊本県	39.1%

資料出所：平成30年「学校基本調査」

また、県外就職者のうち東京都に就職する人は48.9%と半数を占めています。（平成30年学校基本調査より）

東京都での生活は、大都会ならではの華やかさはありませんが、通勤時のラッシュ、人混み、車の渋滞など、青森県の暮らしにはないハードな面も持ち合わせています。一方、私たちが暮らす青森県は、豊かな自然環境に恵まれ、物価が安かったり、車での移動が快適だったり、様々な面で心に余裕を持てる、暮らしやすい環境であるといえます。

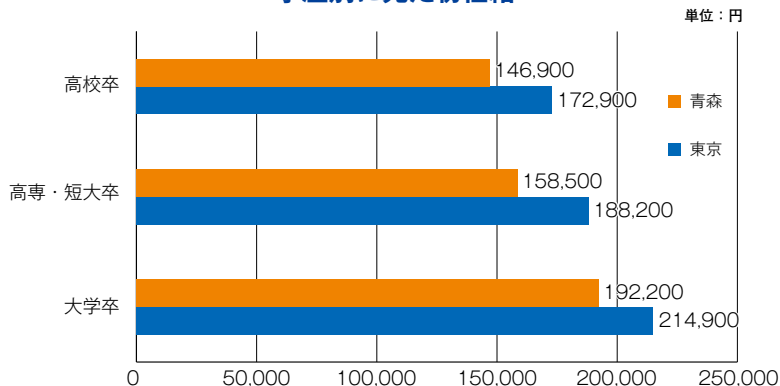
#### ◇青森と東京では、生活費の割合や物価などがどのくらい違うのか、実際の数値で比べてみましょう

#### 【生活費】

青森県よりも東京都の方が、最終学歴を問わず初任給が多いですが、後ほど述べるように、物価水準はほとんどの項目で青森県が優位に立ちます。

従って、東京都で一人暮らしをするにあたり、娯楽や趣味など自由に使えるお金が多いとは、必ずしも言い切れません。

## 学歴別に見た初任給



資料出所：厚生労働省 平成29年「賃金構造基本統計調査」

### ○青森県の物価の総合指数は、全国を100とすると98.3

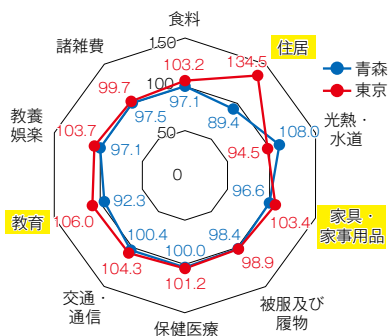
都道府県別の物価水準（消費者物価地域差指数：全国平均＝100）をみると、青森県の総合指数は98.3となっています。ちなみに、最も高いのは東京都（104.4）、次いで神奈川県（104.2）、埼玉県（101.2）となっています。

### ○青森県と東京都で最も差が大きいのは「住居」の物価

消費支出を「食料」「住居」など大分類（10分類）に分けて、青森県と東京都の物価水準（全国＝100）を比較すると、10分類中9分類で、東京都の物価水準を青森県が下回っています。具体的には、「住居」が最も差が大きく（45.1）、次いで「教育」（13.7）、「家具・家事用品」（6.8）と続きます。

唯一、「光熱・水道」だけは東京都の物価水準を青森県が上回っています。

### 青森県と東京都の物価指数 （全国物価地域差指数：全国＝100）



青森県と東京都の物価指数  
（全国物価地域差指数：全国＝100）

資料出所：総務省統計局

「平成29年全国物価統計調査」

## 【余暇・通勤時間】

青森と東京の1日の余暇時間を比較すると、青森の方が自由に使える時間が多く、ゆったり過ごす県民性が表れています。

また、通勤時間も東京に比べて、約30分も短いうえ、朝夕のラッシュもほとんどなく快適です。

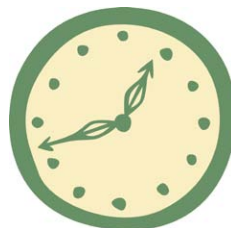
### 行動の種類別平均時間

	余暇時間	通勤時間(往復)
青森県	382分/日	58分/日
東京都	372分/日	94分/日
差	10分	36分

資料出所：総務省統計局「平成28年社会生活基本調査報告」

### 【青森生活】

ゆとりある時間を自分なりにアレンジ！



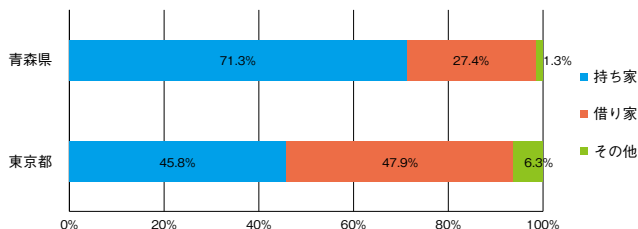
## 【持ち家比率】

○青森県の持ち家比率は、東京都の約1.5倍

住宅の所有状況を見ると、青森県では71.3%が持ち家となっています。

一方、東京都は全国で最も持ち家比率が低く45.8%となっており、約半数が借家となっております。

### 住宅の所有状況



資料出所：総務省統計局 平成25年「住宅・土地統計調査報告」

その他に、住宅に関してはこんな違いもあります。

約3倍

住宅の敷地面積 (1住宅当たり)	青森県 345.58㎡	東京都 115.68㎡
---------------------	----------------	----------------

資料出所：総務省統計局 平成25年「住宅・土地統計調査報告」

約1.7倍

持ち家住宅の延べ面積 (1住宅当たり)	青森県 150.10㎡	東京都 90.68㎡
------------------------	----------------	---------------

資料出所：総務省統計局 平成25年「住宅・土地統計調査報告」

約22倍

マイホームが持てる住宅地の安さ (1㎡当たり)	青森県 16,300円	東京都 354,600円
----------------------------	----------------	-----------------

資料出所：国土交通省 平成30年「都道府県地価調査」

## 4. 家族で就職を考える

### ◇会社を選ぶ際の相談は家族（親・兄弟）のサポートが重要

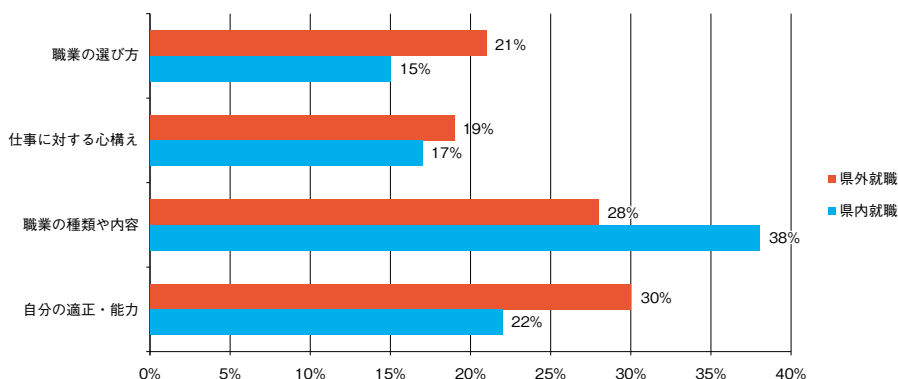
高校を卒業して就職する場合、会社を選ぶ際に相談する相手は、「家族（親・兄弟）」、「学校の先生」等となっており、家族のサポートが非常に重要です。

しかし、現在の高校生の親世代と現在の就職状況は全く異なっており、従来どおりのアドバイスでは時代にそぐわない場合がありますので、家族も就職に関する情報を得た上でサポートすることが大切です。

### ◇就職にあたっては事前の準備が必要

就職するにあたっては、「自分の適性・能力」「職業の種類・内容」「就職しようとする会社の勤務条件」等について事前に調査し詳しく知っておくことが重要です。

### 卒業する前に詳しく知っておけば良かったと思うこと



資料出所：青森県教育委員会「就職指導に関するアンケート調査（平成21年5月）」

## ◇家族が就職活動・職場定着をサポートする際の 専門家からのアドバイス

### ○社会人としての基礎は、家庭生活から

コミュニケーション能力を重視する企業が多いのですが、昨今、あいさつや会話が出来ていない若者が増えています。あいさつ等は、日頃からする習慣がないと、社会へ出てから急に出来るものではありません。常日頃から家庭での会話を大切にし、コミュニケーション能力を養っていきましょう。

### ○職業選択にあたっては、親としてではなく人生の先輩として

子供の職業選択に際し、親の意見は大きな影響を与えます。親という立場で一方的に自分の価値観等を子供に押しつけるのではなく、まずは、子供の考えを肯定的に聴き、自分の仕事経験等をもとに、人生の先輩というスタンスでアドバイスをしてあげてください。

### ○子供が仕事を辞めたいと言ったら

就職してから子供が仕事を辞めたいと言ったら、まずはなぜ辞めたいと思ったのか、その理由をきちんと聴きましょう。社会へ出ると、仕事も人間関係も簡単なことばかりでなく、いくつかの経験を経て、本当の良さが分かることが多いのです。このあたりを親自身の経験をもとにじっくり話し合ってみましょう。

### ○就職活動を支援する機関の利用

子供は、家族のアドバイスを素直に受け入れないけれど、他人の意見は素直に聴けるということもあります。学校でも就職に関する相談には応じますが、若年者の就業支援機関として「ジョブカフェあおもり（青森県若年者就職支援センター）」がありますので活用しましょう。専門のカウンセラーが相談に応じています。

# ジョブカフェあおもりの支援内容

## ① カウンセリング事業

カウンセラーを配置して、適性・適職診断やカウンセリング等を相談から就職決定までの一貫したサービスを提供しています。

## ② ジョブカフェ体験事業

職業観形成のために、中・高校生が学校単位でジョブカフェを訪問し各種支援コーナーが体験できるサービスを提供しています。

## ③ 講師派遣事業

利用者の要望を踏まえ、高校・大学等にカウンセラーを派遣して学生・生徒の職業選択アシスト等を実施しています。

## ④ 高校の進路指導担当者、高校生の保護者セミナー

高校の進路指導担当者や保護者を対象に進路指導に必要な知識の習得や就職問題に対する知識・関心を高めるためのセミナーを開催しています。

## ⑤ 就職支援ガイダンス

高校生・専門学校生・短大生・大学生、若年求職者を対象に就職支援のためのガイダンスを開催しています。

## ⑥ その他

模擬面接や履歴書の書き方などの就職準備のための支援や各種セミナー、定着促進のための講演会等を実施しています。

## ◇就職活動のスケジュールを知って子供をサポートしましょう！

新規高卒者の就職活動は一定のスケジュールに沿って進んでいきますので、保護者の方にもあらかじめこのことを理解していただくことが必要です。

また、県内の高校では入学当初から、生徒に進路に対する関心を持たせ、職業適性診断やインターンシップ、セミナーなどを通して、進路実現に向けた準備をしていますので、子供の通う高校のスケジュールや取組についても理解しておきましょう。

### ○就職活動のスケジュール

高校3年の6月までに	望ましい職業観と 進路選択能力の育成	自己理解（適性・適職診断）、インターンシップ、就職ガイダンス、企業見学会 ・「働く意義」について考える ・自分が何をしたいのか、何に向いているのか等を考える ・実際に職場・仕事を体験し、望ましい職業観を形成 ・自らの進路を主体的に選択する心構えの育成
7月1日以降	学校で新規高卒者向け 求人票の公開開始	・求人票が出されている会社の調査 ・家庭、学校での相談 ・企業見学、合同説明会などへの参加 ↓ ・応募する会社を選択
9月5日以降	学校から企業への推薦、 応募	応募書類の作成、就職試験の準備 履歴書などの応募書類の書き方も重要です。また、学力、作文などの筆記試験の他に面接なども行われるので、面接の受け方など事前準備が必要です。
9月16日以降	企業の選考	就職試験・面接
	採用内定開始	入社準備 内定した場合は、ビジネスマナーなどの社会人の心得を勉強するなど、入社に向けた準備が必要です。 ※採用とならなかった場合は改めて別の会社へ応募します。

### ★卒業までに就職先が決まらなかったら…★

就職活動を続けても卒業までに就職先が決まらない場合には、卒業後も学校とハローワークが引き続き協力して就職先の開拓や求人情報の提供に努めていますので、必ずハローワークに登録してください。



## 5. 就職支援相談窓口

### ◇就職についての相談

就職に関することはお近くのハローワーク（公共職業安定所）にご相談ください。  
また、ジョブカフェあおもりでは、学生・生徒、45歳未満の若年求職者、保護者等に対し就職に関する相談や様々な支援サービスを提供していますので、お気軽にお越しください。

### ヤングジョブプラザあおもり

青森県観光物産館アスパム内の若年就職支援施設である「ジョブカフェあおもり」、「ハローワークヤングプラザ」、「あおもりサポステ」の3施設が一体的運営を開始し、若年者に対して、より迅速で総合的な支援を行っています。

〒030-0803

青森市安方1丁目1番40号青森県観光物産館アスパム3F

■ジョブカフェあおもり（青森県若年者就職支援センター）

☎017-731-1311

■ハローワークヤングプラザ

（青森公共職業安定所・青森新卒応援ハローワーク）

☎017-774-0220

■あおもりサポステ（あおもり若者サポートステーション）

☎017-775-5301（あおサポ@アスパム）

### ◎「青森新卒応援ハローワーク」とは…？

新卒就職未内定者、未就職卒業者（卒業後3年以内の既卒者）の皆様が利用しやすく気軽にきめ細かな支援を受けることができる専門のハローワークです。学卒ジョブサポーター（専門相談員）が全国ネットワークで皆様の内定・就職実現のお手伝いをします。

※青森県内では青森新卒応援ハローワークの他、ハローワーク八戸・弘前にも学卒ジョブサポーターを配置しています。

## ◇ハローワーク（公共職業安定所）

ハローワーク青森 (青森公共職業安定所)	〒030-0822 青森市中央2丁目10-10 ☎017-776-1561
ハローワーク八戸 (八戸公共職業安定所)	〒031-0071 八戸市沼館4丁目7-120 ☎0178-22-8609
ハローワーク弘前 (弘前公共職業安定所)	〒036-8502 弘前市南富田町5-1 ☎0172-38-8609
ハローワークむつ (むつ公共職業安定所)	〒035-0063 むつ市若松町10-3 ☎0175-22-1331
ハローワーク野辺地 (野辺地公共職業安定所)	〒039-3128 上北郡野辺地町字昼場12-1 ☎0175-64-8609
ハローワーク五所川原 (五所川原公共職業安定所)	〒037-0067 五所川原市敷島町37-6 ☎0173-34-3171
ハローワーク三沢 (三沢公共職業安定所)	〒033-0031 三沢市桜町3丁目1-22 ☎0176-53-4178
ハローワーク十和田 (三沢公共職業安定所十和田出張所)	〒034-0082 十和田市西二番町14-12 十和田奥入瀬合同庁舎1階 ☎0176-23-5361
ハローワーク黒石 (黒石公共職業安定所)	〒036-0383 黒石市緑町2丁目214 ☎0172-53-8609

## ◇若者サポートステーション

あおり若者サポートステーション	〒030-0803 青森市安方1丁目1番40号 青森県観光物産館アスパム 3階ジョブカフェあおり内 ☎017-775-5301
ひろさき若者サポートステーション	〒036-8182 弘前市土手町134-8 キャリアスクールI・M・S 2階 ☎0172-35-4851
はちのへ若者サポートステーション	〒031-0042 八戸市十三日町4-1 ☎0178-51-8582

## ◇関係機関等

青森労働局総合労働相談コーナー	〒030-8558 青森市新町2丁目4-25 青森合同庁舎8階 ☎017-734-4211
青森県商工労働部 労政・能力開発課	〒030-8570 青森市長島1丁目1-1 ☎017-734-9398



2019年3月発行

**発行：青森県商工労働部 労政・能力開発課**

〒030-8570 青森市長島1丁目1-1

TEL 017-734-9398 FAX 017-734-8117